

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成27年武道振興大会



下村博文文部科学大臣（左）へ前田武志武道議員連盟副会長から決議文が手渡される



空手道の体験武道



講義に聴き入る参加者たち

第27回国際武道文化セミナー



決議文を手にする下村博文文部科学大臣（右）と
武道議員連盟副会長・前田武志参議院議員

下村博文文部科学大臣に 武道振興の決議文を手渡す

平成27年武道振興大会



松永光日本武道協議会・日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



前田武志武道議員連盟副会長が壇上で決議文を朗読。その後、下村博文文部科学大臣に決議文を手渡した

平成27年武道振興大会は3月4日、東京・永田町の憲政記念館で関係者250名が出席して行われた。大会では主催三団体（武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）がまとめた武道振興を要望する決議文が満場一致で採択され、武道議員連盟副会長の前田武志参議院議員より、下村博文文部科学大臣に手渡された。（詳細は162頁）。



臼井日出男日本武道協議会。日本武道館理事長の発声により乾杯

平成 27 年武道振興大会

中学校武道必修化の条件整備 をより一層推進



挨拶に立つ高村正彦 武道議員連盟会長

決 議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。四年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、二年前には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 平成二十四年四月に完全実施された中学校武道必修化が成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。

二 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道学科卒業の新卒教員を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。



下村博文文部科学大臣



松永光日本武道協議会・日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長

平成27年武道振興大会（主催Ⅱ武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）が3月4日、東京・永田町の憲政記念館で開催された。

大会には国会議員や武道関係者約250名が出席。中学校武道必修化が成功するための条件整備、特に授業時間数を増やし、複数種目の実施校拡大を図ることや、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会で空手道の種目採用を強力に推進することなどを要望する決議文が満場一致で採択され、下村博文文部科学大臣に手渡された。

大会には、武道議員連盟に加入する国会議員73名、文部科学省、日本武道協議会・日本武道館役員ほか、関係者250名が集まった。定刻の正午、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の司会により、北川知克武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言で始まった。

最初に主催三団体を代表して高村正彦武道議員連盟会長が登壇し、挨拶を行った。

「武道関係者の皆様に変なお力をいただいて、中学校武道必修化を大

また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間数を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向け、空手道の種目採用を強力に推進するとともに、柔道会場となる日本武道館の建物・設備の充実に最大限の支援・助成を行うこと。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十七年三月四日



白井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長



前田武志武道議員連盟副会長



北川知克武道議員連盟理事・事務局長



高木陽介武道議員連盟副会長

過なく進めてこられたことは、大変有難いことであります。ただ、大過なくできればよいという訳でもありません。日本人の精神的バックボーンである武士道精神を取り戻そう。日本人の美しい心を取り戻そう。そういう目的が達成できて、『めでたし』『めでたし』という所から、『めでたしめでたし』という所になる訳です。そのためには、授業において武道の真髓に触れてもらうことが、絶対に必要だと思えます。それには、全国津々浦々の武道関係者の皆様方のご参加、ご尽力が必要なことです。皆様方のより一層のご健闘を心からお祈りし、主催者挨拶といたします」

次に、松永光日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶を述べた。

来賓祝辞では、下村文科大臣が登壇し、「いま決議をいただきました。いずれも私の所管でございます。しっかりと受け止めて対応させていただきたいと思えます。2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、『道』の精神を拡げていくという意味では、新たに空手道も競技種目に入ることと考えていく時にきていると思えます。2020年のオリ

「本日は、武道に極めて深い認識をお持ちの先生方にお集まりいただき、誠に嬉しい限りです。日本武道館の運営、武道振興活動については、いろいろとご意見があると思えます。遠慮なく私どもにおっしゃっていただき、より一層優れた武道振興活動を進めていきたいと考えています。今後も武道精神の復興のためにご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。『武道振興があつて日本の発展がある』を合言葉にご活躍いただきたく思います」

続いて、前田武志武道議員連盟副会長が大会決議文を朗読。満場一致の拍手で採択された決議文が、前田副会長から下村博文文部科学大臣に直接手渡された（決議文別掲）。



前田武志武道議員連盟副会長が朗読する決議文を確認する出席者

ンピック・パラリンピックを最大のチャンスと捉え、スポーツ立国としてトップアスリート、全ての国民のスポーツによる健康を保持できるような国造りを目指していきます。そ

内閣総理大臣祝辞

武道振興大会の御盛会、誠にありがとうございます。

武道は、心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重し、心胆を鍊るという、我が国が世界に誇る伝統文化です。「礼に始まり、礼に終わる」といわれるように、礼節を重んじる武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれていることは、御同慶に堪えません。

第一次安倍内閣において、約六十年ぶりに教育基本法を改正し、道徳心を培うこと、健やかな身体を養うこと、伝統と文化を尊重することを教育の目標として明記するとともに、平成二十四年度から全国一万余校の中学校で武道を必修化としました。次代を担う子どもたちが、我が国伝統の武道に触れることで、心身ともに健全に育つことを願ってやみません。

また、五年後には、オリンピック・パラリンピック競技大会が再び東京で開催されます。大会を契機に、国内外の多くの方々が、競技種目である柔道のみならず、我が国の伝統文化たる武道の真髄に触れ、平和で豊かな社会作りへとつながることを期待しています。

結びに、本日ご参集の皆様には、平素から武道振興にご尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。何卒、今後とも、より多くの皆様の心身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善の増進のため、お力添えを戴きますようお願い申し上げます、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十七年三月四日

内閣総理大臣

安倍 晋三



の元となる武道の精神が全国に行き渡るよう、文部科学行政、そしてオリンピック・パラリンピックに向けて活動を決議に則り、さらに加速するよう先頭に立つて頑張ることを誓います」と述べた。

その後、安倍晋三内閣総理大臣の祝辞文(別掲)が披露された。続いて、武道9団体の代表者挨拶へと移った。その後の懇親会では、白井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長が「私たちの共通目的は決議の中に秘められております。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて空手道を正式種目として採用する。そのことも皆で応援していくことが決議の中に出てきました。これからも皆様方の更なるご活躍を心からご祈念申し上げます」と述べ、力強く乾杯の発声を行った。懇親会では、出席者は和やかな雰囲気の中、武道必修化の充実へ向け、大いに歓談した。

午後1時過ぎ、高木陽介武道議員副会長が出席者へ感謝の言葉と、「決議文内容の実現へ全力で取り組みたい」と抱負を述べ、武道振興大会は盛会の裡に幕を閉じた。

各武道代表者に聞く

各連盟・団体の代表者に、武道必修化3年を経過しての課題と現状
武道授業で学びとってほしいことについて話を伺った



少林寺拳法連盟
後藤和雄理事



日本相撲連盟
南和文副会長



全日本柔道連盟
宇野博昌事務局長



全日本なぎなた連盟
佐藤浩市会長



全日本空手道連盟
笹川堯会長



全日本剣道連盟
松永政美副会長



全日本銃剣道連盟
酒井健会長



合気会
植芝守央理事長



全日本弓道連盟
加藤出専務理事

◎柔道

宇野博昌全日本柔道連盟事務局長
「授業協力者の方々をうまく使っていただけという体制を整えましたが、採用されないという現状があります。学校の先生以外の柔道経験者にどのように協力してもらうかが課題です。怪我なく行うためには、柔道をよくわかった先生が必要です。人を投げるといえるのは、相手を尊重することから始まっていますので、その精神も学んでいただきたいと思っています。何はともあれ、柔道を楽しんでほしいです」

◎剣道

松永政美全日本剣道連盟副会長
「武道が必修となり、剣道を学ぶ人が増えました。非常によい取組が実を結んだと思います。武道授業には様々な課題がありますが、その一つとして、剣道具の整備が挙げられます。連盟としては、

整備の促進を訴えていきたいと考えます。剣道を学ぶ生徒には、技術よりも武道の精神を学んでほしいです。それが今の日本人に必要な点だと感じます」

◎弓道

加藤出全日本弓道連盟専務理事

「現在弓道を採用している中学校は17校ほどですが、小さい学校だったり、他の競技ができないという特徴があります。今年目標は、都道府県地連を通じて教育関係者に働きかけていただき、普及することです。

中学生には弓道で自己を律し、行儀を身につけていただきたいです。また、一度でも弓に触れた経験があれば、いつか弓の道に入ってきていただけるかと期待しております」

◎相撲

南和文日本相撲連盟副会長

「武道の中では、相撲が子供たちが一番馴染みがあります。ルールもわかりやすいですし、もともと多くの学校で相撲を取り入れてもらえるようにしたいです。そのためにも、指導者を育成して相撲を学ぼうとする子

供たちに、しっかりと教えられるようにしたいです。連盟としては、指導者講習会を開くなど、相撲授業の充実に向けて地道な努力を続けていくつもりです」

◎空手道

笹川堯全日本空手道連盟会長

「空手道は約200の中学校で採用されていますが、数としてまだまだ足りません。私たちは、空手道を教育の一環として考えています。これから、突き・蹴りだけではなく、礼節を重んじることを、しっかりと伝えていきたいと思っています。具体的な取組としては、大学の教職課程で空手道を学べるような体制作りを推進したいと考えます」

◎合気道

植芝守央合気会理事長

「合気道を実施している中学校はまだ40校ほどですが、採用校では、互いを尊重し合う教えや精神を技との関わりの中で学び、もともとやりたいという生徒も多いと聞きます。地域に根ざすことも視野に入れつつ、各都道府県の連盟と協力しながら指導

者講習会などを開き、長期的な計画で合気道の発展を考えていきたいと思っています」

◎少林寺拳法

後藤和雄少林寺拳法連盟理事

「採用校が増えるよう先生方に呼びかけつつ、指導者を育成していきたいと考えます。指導者講習会では、安全面での指導が重要だと思っています。本部のある香川県の多度津では実施校があります。それ以外の地域でどのように実施校を増やしていくのが今後の課題です。授業では、『平はは自己の幸せを、半はは人の幸せを』の精神を学んでほしいです」

◎なぎなた

佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長

「連盟設立60周年を契機に、なぎなたを紹介するビデオを制作いたしました。中学校の生徒はもちろん、いろいろな方々に、なぎなたがどのようなものかをわかりやすく紹介する予定です。

なぎなたの授業では、日本人の心をしっかりと学び、日本人に今一番欠けている礼節を、是非勉強してほしいと考えます」

◎銃剣道

酒井健全日本銃剣道連盟会長

「まずは、世の中に銃剣道を知っていただくのが大事です。インターネットを含め、いろいろなメディアを使って銃剣道の良さとともにPRしていきたいです。また、先日行われた中学校武道授業指導法研究事業には、中学校教員が4名しか集まりませんでした。先生方のネットワークなどを活用しながら今後、そういった場に参加してくださる方を増やしていきたいと思っております」

◎久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長

「武道必修化につきましては、非常に順調に導入が図られております。今後はもう少し指導の質、指導者の増員、授業の質を高めていくということが次なる課題だと思います。それに向けて各武道団体の方、サポートしていただける議員の先生方と力を合わせ、その課題に取り組んでいきたいと思っております」

武道議員連盟総会

武道振興施策の充実を図る



松永光日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



山谷えり子武道議員連盟理事



北川知克武道議員連盟理事・事務局長

武道議員連盟総会は、武道振興大会に先立って、3月4日、午前11時30分より憲政記念館で開催された。会議には73名の国会議員（代理出席を含む）と、日本武道館・日本武道協議会役員、文部科学省幹部の計87名が出席し、当年度の収支報告、文部科学省の武道振興施策の説明、日本武道協議会の現場報告、質疑が行われた。

会議は福岡資麿武道議員連盟事務局次長の司会進行で行われた。

はじめに、高村正彦武道議員連盟会長が挨拶に立った。

「国会が忙しいところありがとうございます。有意義な意見交換をしていただきたい」

次に、松永光日本武道館会長が、「中学校で武道が必修になったというのを機会に、皆様方のご支援をいただいて武道振興を立派に成し遂げたい」と挨拶を述べた。

続いて、事務局報告として、北川知克武道議員連盟理事・事務局長から役員名簿と会計報告及び決議文の説明がなされ、内容が承認・可決された。

その後、国の武道振興施策として、久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長が「武道の必修化につきましても円滑に実施が図られており、大きな事故もない状況です」と述べ、予算と施策について報告を行った。

公立中学校保健体育科における武道の実施状況（全国約1万校のうち、1割にあたる940校の抽出調査）については、2年前の調査と比較すると、相撲、なぎなた、少林寺拳法の実施校数が増えていると報告した。27年度の武道関係予算は52億7千万円を確保し、昨年度より3千万円の増額となった。日本武道館への補助は、6千万円とし、今後とも支援充実に図っていく旨の説明があった。

続いて、日本武道協議会の現状報告へと移り、宇野博昌全日本柔道連盟事務局長が次のとおり述べた。

「死亡事故ゼロだけではなく事故ゼロを目指しており、一定の成果が上がってきていると思います。現在は、武道の精神に基づいて礼節を高め、品格のある柔道人の育成に注力しております」

その後、佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が次のとおり述べた。



穴見陽一衆議院議員



高鳥修一衆議院議員



久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長



会議の様子



佐藤浩市
全日本なぎなた連盟会長



宇野博昌
全日本柔道連盟事務局長

「今年の12月に連盟発足60周年を迎えます。6月には、世界選手権大会をカナダのモントリオールで開催します。日本を除く世界のなぎなた人口は、800人から10000人で、14カ国で愛好されています。」

中学校の武道授業では、なぎなたの採用校が若干増加しています。現在約60校でなぎなたが実施されています。60周年を契機に、なぎなたを紹介するビデオを作成します。大勢の方々になぎなたの魅力を知っていただけるよう、普及促進に努めていきたいと思っています」

質疑では、高鳥修一衆議院議員が「オリンピックの追加種目については、武道種目の中で候補が上がっているのは空手道だけという理解でよいのか、また空手道が選ばれるには、我々はどういうサポートをすればよいのか」、穴見陽一衆議院議員が「試合会場としての県立武道館の整備が進んでいない地域もあるので、決議文の7条で県立武道館のことを表記していただければ有難い」との発言があった。

これに対し、久保局長は「オリンピック追加種目候補はまだ限定さ

れていませんが、武道では空手道のみです。追加種目を決める際には、各種アンケート調査も参考にします。現時点では野球が8割、空手道が1割という状況ですので、各地で空手道採用の声をあげる活動をしていただくことが大事だと思います。また、体育館、武道場の整備につきまして、予算は最優先で確保しております。今後はいろいろな声を汲んで、整備を進めます」

さらに、山谷えり子武道議員連盟理事から、「抽出調査によると、年間授業時間がモデルカリキュラムの13時間より少ないので、13時間までは引き上げてもらいたいです。また、実施校の生徒、先生の声もお聞きしながら是非、悉皆調査をしてほしいと思います。よき取組の例を教育委員会等にお配りしながら武道振興を盛り上げる1年にしてほしいと思います」と意見を述べた。

これに対し、久保局長は「出来るだけ早く、くまなく調査して、いろいろなよい事例を集め、全国に紹介していきたいと思います」と答えた。

最後に司会の福岡事務局次長が閉会を宣し、会議は終了となった。

武道議員連盟役員名簿

会 長	高村 正彦（自民）					
副 会 長	赤松 広隆（民主）	江渡 聡徳（自民）	衛藤征士郎（自民）			
	大島 理森（自民）	大畠 章宏（民主）	河村 建夫（自民）			
	鴻池 祥肇（自民）	小坂 憲次（自民）	塩谷 立（自民）			
	高木 陽介（公明）	前田 武志（民主）				
理 事 長	大畠 章宏（民主）					
理 事	逢沢 一郎（自民）	有村 治子（自民）	江田 康幸（公明）			
	北川 知克（自民）	羽田雄一郎（民主）	森 英介（自民）			
	山谷えり子（自民）					
事 務 局 長	北川 知克（自民）					
事務局次長	福岡 資麿（自民）					

文部科学省資料

公立中学校保健体育科における武道の実施状況

文部科学省スポーツ・青少年局参事官（体育・青少年スポーツ担当）付

I. 調査内容

各都道府県域内の公立中学校各 20 校（全国 940 校）を対象に、平成 26 年度の保健体育科における武道の実施状況を抽出調査

II. 調査実施期間

平成 26 年 11 月～平成 26 年 12 月

III. 調査結果の概要

①平成 26 年度実施（予定を含む）種目（複数回答可）

種 目	割 合	種 目	割 合
柔 道	64.4 %	少林寺拳法	0.4 %
剣 道	35.7 %	合気道	0.2 %
相 撲	4.3 %	弓 道	0.1 %
空手道	2.3 %	銃剣道	0.0 %
なぎなた	0.9 %	その他	0.0 %

※都道府県別については、別添「参考」を参照

②複数種目を実施（予定を含む）

区 分	割 合
複数種目を実施している学校	8.1 %

③武道に配当する単元の時間数

区 分	平 均
年間平均授業時数	9.4 時間

④指導体制

区 分	割 合
地域の人材を活用	15.0 %

都道府県別・武道実施（予定含む）種目

【参考】
(単位：学校)

	柔道		剣道		相撲		空手道		なぎなた		少林寺拳法		合気道		弓道		銃剣道		その他		
1	北海道	12	60%	7	35%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	青 森	15	75%	5	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	岩 手	17	85%	4	20%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4	宮 城	14	70%	7	35%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	秋 田	18	90%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	山 形	20	100%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	福 島	10	50%	8	40%	0	0%	1	5%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	茨 城	16	80%	7	35%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	栃 木	9	45%	12	60%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10	群 馬	19	95%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	埼 玉	15	75%	10	50%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	千 葉	14	70%	8	40%	2	10%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	東 京	16	80%	6	30%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	神奈川	16	80%	6	30%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
15	新 潟	19	95%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16	富 山	17	85%	3	15%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
17	石 川	17	85%	3	15%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	福 井	10	50%	11	55%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	山 梨	16	80%	2	10%	3	15%	0	0%	1	5%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%
20	長 野	3	15%	17	85%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
21	岐 阜	3	15%	17	85%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
22	静 岡	19	95%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
23	愛 知	12	60%	9	45%	1	5%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
24	三 重	11	55%	7	35%	3	15%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
25	滋 賀	13	65%	7	35%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
26	京 都	19	95%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
27	大 阪	13	65%	9	45%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
28	兵 庫	15	75%	6	30%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
29	奈 良	12	60%	8	40%	2	10%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
30	和歌山	9	45%	7	35%	3	15%	1	5%	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
31	鳥 取	14	70%	6	30%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
32	島 根	14	70%	5	25%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
33	岡 山	8	40%	9	45%	4	20%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
34	広 島	9	45%	12	60%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
35	山 口	18	90%	2	10%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
36	徳 島	7	35%	13	65%	4	20%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%
37	香 川	10	50%	13	65%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
38	愛 媛	10	50%	15	75%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
39	高 知	5	25%	11	55%	5	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
40	福 岡	11	55%	13	65%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
41	佐 賀	5	25%	15	75%	2	10%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
42	長 崎	17	85%	3	15%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
43	熊 本	11	55%	8	40%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
44	大 分	11	55%	8	40%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
45	宮 崎	18	90%	4	20%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
46	鹿児島	16	80%	3	15%	1	5%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
47	沖 縄	2	10%	2	10%	1	5%	15	75%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計		605	64.4%	336	35.7%	40	4.3%	22	2.3%	8	0.9%	4	0.4%	2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%

※都道府県欄の割合は都道府県毎の調査対象校（20校）に占める割合、合計欄は全調査対象校（940校）に占める割合

※網掛け部分については、各都道府県で実施予定が最も多い運動種目

武道の振興について

文部科学省スポーツ・青少年局

(26 年度予算額 52.4 億円)

27 年度予算案 52.7 億円

平成 27 年度は、中学校の保健体育において武道が必修となり 4 年目。引き続き、全国的に円滑かつ効果的な指導に向けて、施設、指導者、指導内容、指導方法の充実に努めるとともに、事故防止、安全管理の徹底に取り組んでまいります。

1. 学校における武道指導の充実 (46.0 億円)

(1) 武道場の整備 46.0 億円

中学校学習指導要領保健体育科において必修となった「武道」の安全かつ円滑な実施のため、中学校武道場新改築事業に対する国庫補助を行い、整備促進を図る。

○公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金）

○私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）

(2) 指導内容の充実 (5.7 億円)

○武道等指導充実・資質向上支援事業 6.1 億円

武道等の指導を担う教員の資質向上、指導の充実等を図るため、体育教員の資質向上プログラム開発・実践、地域や学校の実態に応じ複数の武道種目を実施するなどの特徴的な取組、関係団体における武道指導に関する支援体制の強化等の取組を支援する。

○運動部活動指導の工夫・改善支援事業

スポーツ医・科学等を活用した指導体制の構築、多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善、指導者の研修機会の充実に図ることにより、体罰を根絶し、適切な内容・方法による運動部活動を推進する。

○体育活動における課題対策推進事業

体育活動中の事故防止、科学的知見やデータに基づく効果的な体育活動の実施など、様々な課題に対応した取組を推進する。

○学校でのオリンピック・パラリンピック理解促進事業

全国の学校でオリンピック・パラリンピック教育を促進するための指導参考資料（映像教材等）を作成する。

○文部科学省等が実施する武道講習会

（独）教育研修センターや武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなる得る教員を養成するための武道講習会を実施。

【参考：都道府県教育委員会における取組】

・都道府県教育委員会が実施する武道講習会

各都道府県教育委員会が、武道の指導経験の浅い体育担当教員を対象とした基本的技能習得のための講習会や、体育担当教員等を対象とした講習会を実施。

(3) 武道関係教材等の充実

平成 24 年度から、10 か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置が講じられている。

2. 武道団体への支援等 (0.6 億円)

(1) (公財) 日本武道館への補助 0.6 億円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対して補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成

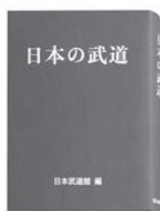
スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて、団体が行う選手強化活動や武道教室等の事業などに助成。

（平成 25 年度実績額） 1.6 億円

（平成 26 年度配分額） 2.4 億円

1. 学校における武道指導の充実			2. 武道団体への支援
(1)武道場の整備 ↓ 武道場の整備促進を図る (27 年度予算案 46 億円) ○公立中学校武道場の整備 ○私立中学校武道場の整備	(2)指導者対応 ↓ 指導者における指導力の向上を図る (27 年度予算案 6.1 億円) ○武道等指導充実・資質向上支援事業 ○運動部活動指導の工夫・改善支援事業 ○体育活動における課題対策推進事業 ○学校でのオリンピック・パラリンピック理解促進事業 ○武道講習会の開催等	(3)武道関係教材等の充実 ↓ 中学校における武道防具等の整備を図る ○義務教育諸学校における新たな教材整備計画（地方交付税措置） ・「教材整備指針」に基づく教材の整備に必要な経費を平成 24 年度から 10 年間地方財政措置 (例)柔道畳、剣道防具一式 等	(1) (公財) 日本武道館への補助 ↓ 日本武道館が実施する各種事業に対する支援を図る (27 年度予算案 0.6 億円) ○古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会等 (2)日本スポーツ振興センターによる助成 ↓ スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて団体が実施する各種事業に対する支援を図る ○ドーピング検査事業、各種大会、選手強化合宿 等 (26 年度配分額 2.4 億円)

◎ 日本武道館の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道の全てを網羅した、武道関係者必携の書。武道小百科事典としても役立つ充実した資料編を巻末に収録。



高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著

(四六判・上製・564頁)

教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授 佐藤鍊太郎 著

(四六判・上製・386頁)

禅の思想と剣術がどう関わってきたか、武道伝書を基に検証し、剣術が剣道へと発展昇華していく過程をわかりやすく解説。



刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授 酒井利信 著

(四六判・上製・346頁)

日本人が、刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か。日本刀剣思想の独自性を確かな史料を基に考察する。



人を育てる剣道

剣道範士八段 角 正武 著

(四六判・上製・268頁)

剣道の真価は、気力を練り上げ、肚をつくる修行にある。人間の土台をつくる剣道を目指す著者渾身の剣道指導論。

◎ご注文・お問い合わせ

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号

日本武道館 教育文化部出版広報課

TEL(03)3216-5147/FAX(03)3216-5158

<http://www.nipponbudokan.or.jp/>

好評発売中

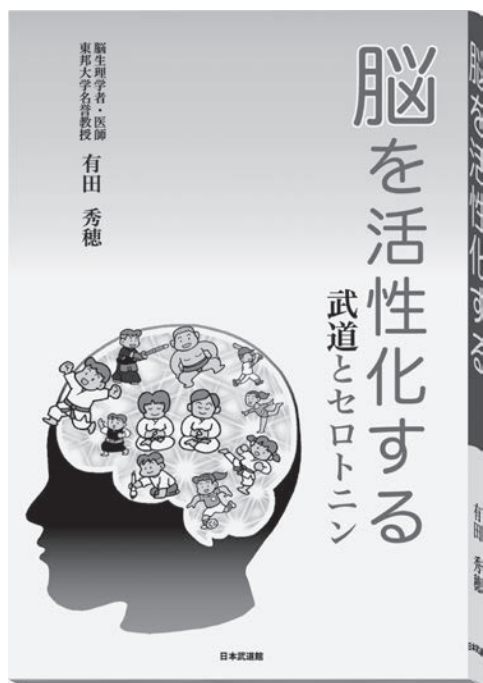
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニンの生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

：他

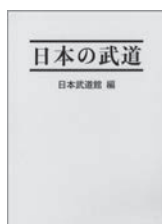
編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



第27回 国際武道文化 セミナー

第27回国際武道文化セミナーが、3月6日～8日の2泊3日の日程で、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターおよび国際武道大学を会場に開催された。稽古のほかに、自身の修業種目以外の体験、講義、班別討論会、古武道体験が行われ、参加者は互いに交流し合いつつ武道への理解を深めた。

…武道づくしの3日間

本セミナーは、日本在住外国人と日本人の武道修業者を対象として実施されている。今年は外国人67名と日本人12名、計79名の参加者が集まった。

●1日目

6日、午後2時30分から日本武道館研修センターで行われた開講式では、主催者を代表して三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「武道は日々の修練を通して自分自身を高める人間形成の道です。この3日間、日本を代表する先生方から教えを請い、参加者同士が交歓し、素晴らしいセミナーにしてください」と歓迎の挨拶を述べた。続いて講師（実技講師・助手）が紹介された。

午後3時15分からは、講義「剣道の教育的効果」が松永政美全日本剣道連盟副会長によって行われた。

松永氏は、剣道では刀の原理としての細かな決まりを守りながら、いかに隙を作り、いかに打つかと考えることで、人間として成長すること。自然体の維持、左右対称の構え、敏捷な動きが必要とされるため、身体面でも大きな効果があることを説明



松永政美講師



真剣に講義を聞く参加者

した。また、剣道では「知、仁、勇」の三徳が身に付くことを紹介。最後に、どの武道でも、さまざまなことを乗り越えることにより、教育効果が現れるのではないかとまとめた。その後、午後5時から1時間、講師の指導のもと、参加者は各自が修業する種目の稽古（実技研修）に励んだ。



稽古、体験、講義、討論

実技講師・助手	
柔道	石井兼輔七段、山田利彦六段、大島修次七段、越野忠則六段
剣道	網代忠宏範士八段、井島章教士八段、丸橋利夫教士八段、岩切公治教士八段
弓道	飯島正大範士八段、坂本武彦教士八段
相撲	伊東良五段、三輪隼斗参段、南友太参段
空手道	高橋昇教士七段、山口貴史五段
合気道	金澤威七段、森智洋六段
少林寺拳法	佐藤健二正範士八段、村瀬晃啓大拳士六段
なぎなた	砂川邦子範士、小野恭子教士
銃剣道	佐藤亨範士八段、小川功教士八段
竹内流柔術 腰廻小具足 (古武道体験)	竹内藤十郎相伝家十三代目、竹内秀将師範代、竹内勢至師範代、中川平介師範代、濱崎一成准師範代、森格指導員

●2日目

朝から国際武道大学へ移動し、午前8時30分から、菅野純早稲田大学人間科学学術院教授による講義「武道の教育的価値について」が行われた。菅野氏はカウンセラーとしてさまざまな子供たちを見てきた経験から、「武道は現代の子供たちの成長課題にどのような意味を持つか」「武道が人間教育としてより完成するた

めには指導者は何を心がけるべきか」の2つのテーマについて話した(要旨別掲)。

参加者は真剣な表情で講義を聞き、1時間にわたる講義の後、質疑応答になると続々と手が挙がった。「文部科学省のいう『日本の伝統的な行動様式』についてどう思うか」という質問に、菅野氏は「日本の武道の伝統的な行動様式には、何か、世界共通の、人間が求める心が強調



菅野氏による講義

されているのではない。だから世界には武道を修業する人がたくさんいるのでは」と答えた。また、「講義の中であがった『武道の教育力』は、他のスポーツにも当てはまると思うが、武道とスポーツは何が違うのか」の問いには「それらを分けるものがあるとすれば、『礼』ということだと思う。多くのスポーツでは試合に勝って喜びを表現するが、日本の武道では負けた人の心を慮（おも）ることを大事にする。それが大きな特徴だと思う」と述べた。

まだ大勢の挙手があったが、終了予定時間ということで、2名の質疑応答で終了。残念がる溜め息（ためいき）も聞こえ、関心の高さがうかがわれる中、講義は終了した。

休憩を挟み、午前10時より2時間にわたり、班別討論会が行われた。本セミナーのコーディネーター・村田直樹講道館図書資料部長から実施方法について説明の後、講師、参加者は種目によって3つの班に分かれ、共通のテーマ「武道の価値を探る」について話し合った。A班（柔道、相撲、合気道）は中村勇鹿屋体育大学講師、B班（剣道、なぎなた、

銃剣道）は田中守国際武道大学教授、C班（弓道、空手道、少林寺拳法）は松尾牧則国際武道大学教授が、各班の司会進行役となり、それぞれ異なるアプローチで、武道の価値とはどのようなところにあるのかを巡って、どの班でも活発な意見交換がなされた。

▽A班

司会者が方向性をあまり定めず、参加者からの発言をもとに話題をピックアップし、意見を交換した。その中で話題は暴力・いじめと武道という問題に移っていき、「修業を通して人の痛みを感じ、それによって人の痛みも分かるようになる。だから力を身に付けながらも人に対しては使わない」というところに、武道の教育効果が現れており、そこに価値が見出せるのではないか」というところにたどり着いた。

▽B班

武道に何を期待し、何を求めて取り組み始めたか、修業するにつれてどんな変化があったか、という問いかけから始めた。「剣道は単なる剣の操作法ではなく、人の道だ」ということが分かってきた」という発言を

「武道の教育的価値」要旨

(1) 武道は現代の子供たちの成長課題にどのような意味を持つか

現代の子供たちは、基礎体力の低下、教育格差、家庭不和、人間不信感、愛情飢餓感、無気力、不登校、反社会的行動、幼さ、未来への夢を描けない……などの発達課題を抱えている。

こうした子供たちに、武道は学校教育にはない6つの教育力を持つ。

① 健全な自己イメージの獲得

打たれても、倒されても、蹴られても、少々のことで自分は壊れないという体験により、安定した自己イメージの形成につながる。自分の身体を媒介として「自分」と出会うことで、確実に健全な自己イメージを可能にする。

② 人間理解力の獲得

他者と出会い、五感で感じ取り、言

葉だけではできない他者理解が育つ。身体を媒介とした他者理解は、相手の立場に立つことや弱者へのいたわり、思いやりを育成する。

③ 師・成長モデルとの出会い

生身の指導者が、手本を示し、全身を使って教えることで一体感が生まれ、大人のあり方や生き方を学びとる。

④ 豊かな人間関係力の獲得

礼儀、気配り、態度が問われる武道ならではの教育力。

⑤ 行動の切り替え・節度・けじめの力・覚悟などの獲得

武道の中にはこれらが今でも内在している。

⑥ くじけない強い心の育成

「克己」「回復力」を武道稽古から獲得できる。

(2) 武道が人間教育としてより完成するためには指導者は何を心がけるべきか

① 正しい子供理解

カウンセラーとしての立場から、最も強調したい項目。指導者は子供の性格や、どんなモチベーションで取り組んでいるかなどを把握しなければならぬ。また、稽古が実るためには、子供の心に「人間の良さ」「体験」「心のエネルギー」「社会的能力」の3つの土台が必要。稽古が根付かない場合にも怒ったりせず、この土台に注目してはどうか。

② 子供への愛情と信頼

子供を可愛いと思う心が教育のベ

スとなる。

③ 教える言語化

武道は言葉で表せないことが多いが、できるだけ言語化していくことが大事。

④ 自覚と意欲の育成

その武道を習っていることを誇りに思っているか。

⑤ 指導効果の評価と改善

やめる子供がいたときに、どんなところに原因があったのか、反省的に考える。このような場面こそ指導者を成長させる。

⑥ 個と集団の指導の両立

ひとりの子供に集中したり、問題のある子供を切り捨てることのないよう、個と集団のバランスをどうとるか、考えながら指導する。

⑦ 子供の身体と心の安全の保障

道場でのいじめがあるのが現実。道場での子供の心への配慮が必要。

⑧ 指導者としての専門的力量

⑨ 「武道から社会へ」の確かなベクトル

武道の中だけで人間関係ができあがりがち。その世界だけでなく、社会でも立派に活躍できるよう育成することが必要。

⑩ 保護者からの信頼

親の心にも応えられる指導者に。日本の母親は、指導者に父性を求めている。時には師であり、時には父という両面を持った指導者であることが求められるのではないか。

きっかけに、教育特性を中心に議論していくことに。すると、「指導者には指導能力と人格のどちらを求めているのが良いか」という質問があり、指導者について議論がなされた。さまざまな意見を通して、「武道の師



班別討論会



匠と教え子の関係は体と心のぶつかり合い、人間的なふれあいである。自分がこの人だと思った人こそが良^{してどうきよう}い指導者かもしれない。師弟同行にこそ武道の価値がある」という結論に至った。

▽C班

事前アンケートで、武道を始める前と後で印象が変わったという人がこの班では80%あり、「武道の背景を知ること命の大切さに気づいた」「修練された体は武器にもなるので、道場の外では使わないよう先生に教わった」などの回答があったことが紹介された。これをもとに議論を進め、「武の道が継承され、現代でも受け入れられているのは、そこに教育的な価値が認められているからに他ならない。武道には道徳の教えが含まれ、それらを身体活動を通して体得することができる。また、自分自身と向き合い、自己内省するところに特徴がある」と結論づけた。

討論会が終了すると、日本武道館研修センターに戻り、昼食、記念撮影の後、午後1時半から講師による演武が披露された。弓道、合気道、

相撲、柔道、空手道、銃剣道、なぎなた、少林寺拳法、剣道の順番で、斯界一流の講師による技が繰り広げられた。参加者はカメラやビデオを手し、一挙手一投足に目を凝らした。

午後3時30分からは、自身が修業する種目以外の武道を体験できる「体験武道」の時間となり、ひとり2種目選択し、1時間ずつ取り組んだ。実際に弓道場で弓を引いたり、まわしを着けて土俵で相撲をとったり、本格的な体験ができる。はじめは慣れない動きや、日頃扱わない道具に戸惑ったりしながらも、それぞれの武道を楽しんでいるようだった。一方、セミナー常連参加者の中には、体験種目がすっかり板に付いている人もいた。

夜はフェアウェルパーティーが開かれた。はじめに蒔田実国際武道大学学長が挨拶。続いて、3日目の古武道体験の講師である竹内藤十郎^{たけのうちじゅうろう}竹内流柔術腰廻小具足相伝家十三代目から流派についての簡単な紹介がなされた。そして少林寺拳法・佐藤健二講師が音頭をとって乾杯。参加者同士あるいは講師との交流を深め、賑やかな夜となった。



講師演武（相撲）



フェアウェルパーティーで歓談



蒔田実国際武道大学学長



弓道



相撲



柔道



なぎなた



合気道



少林寺拳法



実技研修・体験武道



空手道



銃剣道・短剣道

剣道



竹内流柔術腰廻小具足の体験

● 3日目

3日目は午前8時30分より、日本武道館研修センターで古武道体験が行われた。今年の流派は竹内流柔術腰廻小具足。まず、竹内藤十郎相伝家十三代目が、流派の歴史、技や精神面の特徴について、30分ほど講義した。竹内氏は、流祖・竹内久盛が敵を生け捕りにして味方に引き入れようとしたのが原点であり、そこから編み出された「捕手」「腰廻小具足」「柔術」が形として現代に伝えられていると説明した。

講師・助手による演武を見学した後、技の体験へと移った。講師・助手が道場内の3カ所で異なる技を教え、参加者は3班に分かれてローテーションで体験していった。その中でも、相伝家十三代目の教える捕縄は、他ではできない珍しい体験ということもあり、特に盛り上がりを見せていた。

11時からは2度目の実技研修が行われ、最後の稽古に汗を流した。

昼食後、午後1時より前日の班別討論会の概要発表が行われた。各班司会者が、約20分ずつ、討論内容の



竹内流柔術の技を体験



竹内藤十郎講師



参加者の感想

◎インソウオウさん（香港・2回目）

「素晴らしいセミナーでした。いちばん楽しみにしていたのは、他の武道の体験です。今年は剣道と空手道を体験しました。普段は弓道をやっているのですが、相手と戦うというところが、激しいと感じたけれど楽しかったです。弓道の稽古では、短い時

間の中で問題のあるところを指導していただきました。いろいろな武道をやってみて、日本は素晴らしい国だと思いました。居合道など、もっと多くの武道を体験してみたいです。来年もまた参加します」

◎バティスト・タウエルさん（フランス・7回目）

「何回も参加しているので、いつも同じ内容ではなく、少しずつ変わればもっと良いと思っています。それから、体験武道はもちろん楽しいけれど、自分の武道の稽古の時間がもっと欲しいですね。せっかく各武道

まとめとそこから導き出された結論を紹介した。

以上ですすべての日程が終了し、閉講式が行われた。吉川英夫日本武道館振興部長が参加者への感謝の挨拶を述べた後、ヴィヴィアン・テュルクさん（シリア、合気道初段）が代表して修了証を受け取った。

参加者は別れを惜しみつつ帰途につき、今年の国際武道文化セミナーは終了した。



ヴィヴィアン・テュルクさんが参加者を代表して修了証を受け取った

を代表する先生がいるのに2時間しかないのは残念なことです。講義ではいつも良い話が聞けます。ただ、外国人向けのセミナーということでは先生方が配慮くださっているためだと思えますが、内容的にちよつと浅いような気がします。武道マニアもたくさんいますし、だいたいみんな基本的なことは知っているので、先生方だからこそその深い話を聞きたいです」

◎中島克直さん（日本・1回目）

中島さんは平成21年の全日本銃剣

道選手権大会優勝者。現在は主要大会の審判を務めている。

「講師の佐藤亨先生に勧められ、もともとこのような交流に興味があったので参加しました。体験武道の間は銃剣道指導の手伝いをしたのですが、たくさんの方々から銃剣道や短剣道に興味を持ってくれて嬉しく思いました。英語ができないので不安がありました。食事やフエアウェルパーティーの時間などに外国の方々と交流を深めることができました。勧めてくださった佐藤先生に感謝しています」

好評発売中

平法

天真正伝香取神道流師範
大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり —平和を願う偉大なる教え—



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

全日本 短剣道大会

団体成年の部

50 普連 A が 2 年ぶりの優勝

個人成年 A は山口徹（18 普連）
女子は中野渡弥生（神奈川県選抜）



団体戦成年の部決勝・中堅戦＝
50 普連 A・三原（左）対普教連 A・小倉。三原の胸が決まる

第 14 回全日本短剣道大会は、2 月

21 日、日本武道館で開催された。団

体戦は 3 部門（成年・女子・高校生）

で計 147 チーム、個人戦は 5 部門（成

年 A・成年 B・成年 C・女子・高校

生）で計 426 名が出場した。

男女とも、1 試合 3 分三本勝負、

時間内に勝負が決しない場合は判定
とした。

■団体戦（3 人制）

▽成年の部（120 チーム）

決勝には 50 普連 A（高知）と普教
連 A（静岡）が勝ち上がった。

先鋒戦は判定で 50 普連 A が勝利。

中堅戦は 50 普連 A・三原大和对普教
連 A・小倉弘之。三原は開始早々に
遠間からの胴で先制。さらに、終了

間際にも胴を決めて二本勝ち。50 普
連 A が 2 年ぶりの頂点に立った（50

普連としては 7 回目の優勝）。

大将戦は普教連・鈴木孝信が胴を
2 つ決めて勝利した。

◎優勝 II 齊藤孝監督（50 普連 A）

「ベテラン 2 人が退いたので、新し
いチームで臨みました。優勝して一
皮むけたのではないかと思います。
試合では、少し構えすぎてしまった

ところがあり、それが反省点です」

▽女子の部（14 チーム）

決勝は 2 連覇中の郡山（福島）と

由利高校 A（秋田）の対戦。先鋒戦

は郡山・秋元美栄が開始から 1 分た

たずに胴を 2 回決め、郡山が先制。

中堅戦は由利高校 A・佐藤真菜が、

お返しとばかりに胴 2 つで星を取り
戻した。勝負のなかった大将戦は判

定で郡山・軽部久美子が勝利。

郡山が 3 年連続 5 回目の優勝を遂
げた。

▽高校生の部（13 チーム）

2 年連続準優勝と、あと一步届か
ない三条商業（新潟）は、決勝で柴

田農林 A（宮城）と対戦。結果は、

三条商業が先鋒・中堅で勝利し、嬉
しい初優勝を果たした。

■個人戦

▽成年 A の部（35 歳以下・255 名）

前回優勝の山口徹（18 普連）は、
準決勝で塩野量也（20 普連）を 2―

0 で降し、決勝で過去準優勝の経験

を持つ三原大和（50 普連）と対戦。

先制したのは山口。開始間もなく接

近戦から胴を決めた。三原も負けじ
と胴を取り返し、1―1 で並ぶ。2



団体戦成年の部優勝＝50 普通A (高知)



個人戦優勝者＝前列左から、山口、長谷川、相野、宮本、中野渡



個人戦成年の部A決勝＝山口(右)対三原



個人戦女子の部決勝＝中野渡(右)対小松

分過ぎ、山口は三原が喉を狙って跳び込んできたところを引いて躲し、胴を返して勝利。2連覇を遂げた。

◎優勝Ⅱ山口徹選手(18普通)

「連覇を目指し、重心を低くした足捌きの練習をしました。決勝では途中で追いつかれましたが、『同じスタートラインに立っただけ。まだ一本ある』と自分に言い聞かせました」

▽成年Bの部

(36歳以上50歳以下・72名)

長谷川英昭(群馬県選抜)と國重

道大(善通寺)の決勝は、長谷川が胴を2回決めて初優勝を飾った。

▽成年Cの部(51歳以上・19名)

第10回から第12回まで3連覇の相野昭昭(青森県選抜)は、初戦から一本も取られることなく二本勝ちで勝ち進み、決勝でも中村興正(体育学校)に胴2つで2-0の勝利。2年ぶり4回目の優勝を果たした。

▽女子の部(44名)

前回準優勝の中野渡弥生(神奈川県選抜)は決勝で小松美緒(山口県

選抜)と対戦し、序盤に決めた胴の一本を守りきり、初優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ中野渡弥生選手(神奈川県選抜)

「12回目の出場で、ようやく優勝できました。今回は仕事が忙しくてあまり稽古時間がとれませんでした。体力負けしないよう、無駄な動きを省いて試合を進めました」

▽高校生の部(36名)

決勝戦、宮本祥旗(尽誠学園)は高橋駿平(三条商業)に胴を續けて決め、2-0で勝利した。

【大会結果】

■団体戦

▽成年の部Ⅰ50普通A(高知)②普教連A(静岡)③1普通B(東京、18普通A(北海道)

▽女子の部Ⅰ郡山(福島)②由利高校A(秋田)③由利高校剣友会(秋田)、中京大学(愛知)

▽高校生の部Ⅰ三条商業(新潟)②柴田農林A(宮城)③尽誠学園(香川)、由利A(秋田)

■個人戦

▽成年Aの部(35歳以下)Ⅰ山口徹(18普通)②三原大和(50普通)

③須藤淳(弘前)、塩野量也(20普通)

▽成年Bの部(36～50歳)Ⅰ長谷川英昭(群馬県選抜)②國重道大(善通寺)③及川大幹(22普通)、近野泰則(体育学校)

▽成年Cの部(51歳以上)Ⅰ相野昭昭(青森県選抜)②中村興正(体育学校)③松田千真男(長野県選抜、石川弘(新潟県選抜)

▽女子の部Ⅰ中野渡弥生(神奈川県選抜)②小松美緒(山口県選抜)③小野曉子(ALSOK)、山口あや子(郡山)

▽高校生の部Ⅰ宮本祥旗(尽誠学園)②高橋駿平(三条商業)③岩淵裕(柴田農林)、齋藤夏音(由利)

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(弓馬術)

日本武道館の歴史

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

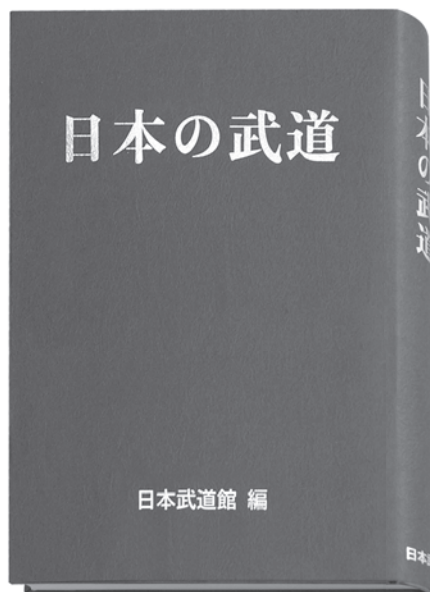
月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道・
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



（B5判・上製・箱入・526頁）



日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本武道館 編